



—東地中海地域ニュース—

パレスチナ：アッバース大統領の訪日

(2月8～9日付 WAFA)

2月8～9日、パレスチナ公式通信社（WAFA）は、訪日中のアッバース大統領の動向を報道した（概要のみ）。

1. 鳩山総理との会談および共同記者会見（2月8日）

アッバース大統領は東京で鳩山総理と会談し、パレスチナ問題の動向および日本・パレスチナ関係の増進について協議した。同会談に続き共同記者会見を行った。

(1) アッバース大統領は、日本がパレスチナ人民を政治的・経済的に支援するために東南アジア諸国の支援を結集する役割を果たす必要性につき、鳩山総理と協議したと述べ、日・パ関係を増進する方策や、パレスチナに対する日本の経済支援の継続についても協議したと付言した。

(2) アッバース大統領は、過去16年間で10億ドル以上に達し、パレスチナ人の苦難の緩和に貢献し、様々な分野を対象としてきた日本の対パレスチナ政治的・経済的支援に謝意を表明するとともに、パレスチナ経済や将来のパレスチナ国家の組織構築に対する日本の支援継続に期待を表明した。

(3) アッバース大統領は、パレスチナ・イスラエル間の和平交渉再開へ向けた最近の動向を説明し、和平交渉がロードマップと国際的に認知された基本原則にもとづき、入植活動が完全に凍結される必要性を指摘した。また、最も重要なことは、包括的かつ公正な中東和平を達成し、東エルサレムを首都として主権を有するパレスチナ独立国家をイスラエルの隣国として樹立するために和平プロセスを前進させることであると述べた。

(4) アッバース大統領は、今回自分は広島を訪問し、原爆ドームや平和祈念公園を訪ねたが、紛争は平和的に解決すべきとの決意と大量破壊兵器を世界から廃絶せねばとの思いを強くし、パレスチナ人民と日本国民との友好と平和のシンボルとして2本のオリーブの木を寄贈したと述べた。

2. アッバース大統領による講演会（2月9日）

アッバース大統領は、有馬前中東和平担当特使が主催する講演会で講演を行い、同講演会には政治家、経済人、ジャーナリスト、アラブ外交団が出席した。大統領は講演の中で、東エルサレムを首都とするパレスチナ独立国家の樹立を支援するために日本が一層の役割を果たす重要性について語り、東南アジア諸国による支援を慫慂したほか、パレスチナ・イスラエル間の和平交渉再開へ向けた最近の動向を説明し、包括的かつ公正な中東和平を達成し、東エルサレムを首都として主権を有するパレスチナ独立国家をイスラエルの隣国として樹立するため、ロードマップと国際的に認知された基本原則に基づき入植活動が完全に凍結される必要性を指摘した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799